

もろこもに

平館高校と交流事業実施

～お互いの学習成果発表～

11月22日（金）、平館高校生徒16名が来校しました。

平館高校は、昨年度までは「やまだのいちび」に参加し、本校生徒と一緒にボランティア活動を行い、交流してきました。

今年度の交流は、第1部では本校の生徒会を中心にした15名の生徒と、山田の食材を使った料理とオランダ料理を調理し、昼食を食べながらの情報交換、第2部では、本校生徒全員も参加して、お互いの学習成果を発表し合いました。

第1部では、佐々木友花さんによる山田町とオランダの関係についてのレポート、班ごとに自己紹介、その後、講師に「竹松や」の佐藤澤一彦さんを招き、調理の指導していただきました。お互いコミュニケーションをとりながら、鮭を使ったコロケ、オランダ料理の「赤皿貝としゅうり貝のビスパネチェ」などを調理し、昼食としていただきました。

第2部では、平館高校からは全国でも上位入賞する「家庭クラブ研究発表」、本校からは、生徒会が「山田町復興状況報告」、1年生が「復興・防災学習発表」を行いました。

平館高校の研究に対する姿勢や発表技術の卓越さを学びました。本校の発表も堂々行い、平館高校の皆さんも真剣に聞き入っていました。

また、今年度も、平館高校の皆さんが文化祭等で売り上げたお金から、義援金を寄せていただきました。たいへんありがたく、大切にさせていただきます。

尚、平館高校家庭クラブの皆さんは、東北大会を勝ち抜き来年度の家庭クラブ全国大会への出場を決めたそうです。おめでとうございます。

平館高校の参加者から

丹内凌さん

山田高校の生徒とすれ違うとき、山田高校の生徒から元気づく大きな声で挨拶してくれて、私たちも見習わなければならないと思いました。

No. 11

令和元年12月18日発行

岩手県立山田高等学校

編集 副校長 川崎 広幸



災害はどこにいても起こることなので、お互い助け合っているような活動をしていきたいと思いました。

佐藤樹莉亜さん

調理の際、同じ学校同士で固まることなく、お互いが積極的に行動でき、短い時間の中でも深い交流ができたことが一番良い点でした。

東日本大震災を機に、沿岸の方の防災意識はより強まっていると感じた。私たちは津波からの被害は少ないが、地震や噴火などに備えて、防災の意識を更に強めていかなければいけないと感じた。

高橋愛美さん

内陸で生活する私たちと沿岸で生活する山田の方々では、災害と聞いて思い浮かぶものも違うと感じ、何かあった時は助け合うことが大切だと思いました。

小野寺奈緒子さん

山田の皆さんの発表を聞き、とても感化されました。前向きに地域の方々とコミュニケーションをとっていること、校内には防災倉庫や備蓄庫があることなどに圧倒されました。岩手山噴火などの際には、地域の避難所である平館高校もコミュニケーションが大切だと思いました。

山田高校の参加者から

福浦真穂さん

お互いが積極的に行動し、手際よく調理ができたと思います。食事をしている際も、話しをしながら楽しく食事ができました。平館高校の家庭クラブの研究発表は、内容はもちろん素晴らしかったし、発表者の話し方もとても聞きやすかったです。少ない時間の中で、たくさん交流ができました。また交流したいと思いました。

馬場祭里さん

調理活動では、初めて知った料理があり、楽しく学び調理することができました。山田の食材とオランダの料理が調和して、初めて食べるきれいな料理もあり、すごくおいしかったです。互いにコミュニケーションをとりながら調理することができました。

他校との交流ができることを知っていて、山高には入学しました。今回の交流で、他校とのコミュニケーションや仲間の大切さを改めて感じました。

佐々木友花さん

山田町とオランダの関わりについて発表する時とても緊張しましたが、上手くできてよかったです。調理の際、だんだん慣れてきて、平館高校の皆さんと楽しい会話ができました。自分から積極的に話しかけ、良い交流ができたと思います。平館高校の家庭クラブの発表は、制作する枕を、地域の方や役場の方などからの意見をまとめ、改良を重ねているなど、レベルが高いと思いました。

山崎飛鳥さん

平館高校の家庭クラブの発表を聞きました。「紫薫枕」を制作して、敬老会を通して贈呈する奉仕活動を56年間も継続していることを知り、すばらしい活動だと思いました。減少している部員で、枕の品質を高めるために研究し、たくさんの枕を制作したことを知って、山田高校の家庭クラブでも、地域のためにできることはあるのかなと思いました。

＝今後も交流を続け、お互い刺激し合い、学習を深めていきましょう＝

